

立命館アジア太平洋大学 (APU) 特別講義

講師：小坂井敏晶 先生（パリ第八大学心理学部准教授）

司会：出口治明（立命館アジア太平洋大学学長）

講演名「常識を見直す難しさ 矛盾と比喩の効用」

共催 立命館アジア太平洋大学、祥伝社

◇日時 2018年8月7日（火） 19:00（開場18:30、終了21:00予定）

◇場所 立命館 東京キャンパス（東京都千代田区丸の内1-7-12 サピアタワー 8F）

*東京駅日本橋出口より直結、地下鉄大手町駅 B7 出口

◇会費：1,000円（当日受付にてお預かりします。）

◇募集人数：先着100名 *どなたでもご参加いただけます。

◇言語：日本語

◇申し込み：以下のサーベイに必要事項を入力してください。

<https://survey2.apu.ac.jp/limesurvey/index.php/573281?lang=ja>

◇お問い合わせ先：APU 東京オフィス（立命館東京キャンパス内）

TEL：03-5224-8188、担当者：伊藤



◇概要

『社会心理学講義』（筑摩書房）、『答えのない世界を生きる』（祥伝社）を上梓されている、社会心理学者の小坂井敏晶先生の特別講義を開催することになりました。

20代でアルジェリアに、1980年代初頭からフランスへ。そうして社会心理学の道に進んだ一人の学者が、いかに全身で学び、思索してきたか、その考えるための道しるべを描いた『答えのない世界を生きる』。その著者の小坂井敏晶先生に、「常識を見直す難しさ 矛盾と比喩の効用」をテーマにお話しいたします。

長い人生のうち、人間は何度も迷います。

そういうとき、手の届くところに簡単な答えを求めがちで、今の生活を正当化して納得する場合がほとんどでしょう。しかし、思考の枠組みの外に出て自分自身を俯瞰できれば、違う答えが見つかります。

どの答えが正しいか、当人にとって良いかはわかりませんが、選択肢を増やすことは有意義です。それは同時に自己のアイデンティティを崩壊しかねる勇気の要る作業ですし、自分をごまかそうとしている防波堤に穴を空けることですから大きな抵抗が起きます。それによって新しい自分が発見されるのです。

◇講演者

小坂井敏晶（こざかい・としあき）

パリ第八大学心理学部准教授。1956年愛知県生まれ。アルジェリアでの日仏技術通訳を経て、1981年フランスに移住。早稲田大学中退。1994年パリ社会科学高等研究院修了、リール大学准教授の後、現職。著書に『増補民族という虚構』（ちくま学芸文庫）、『責任という虚構』（東京大学出版会）、『人が人を裁くということ』（岩波新書）、『社会心理学講義』（筑摩書房）、『答えのない世界を生きる』（祥伝社）など。